



南雲正美

一

般

質

問

町の経済活性化と人口減少 および少子化対策について

町長は議会初日の行政報告で町は合併せず、小さくてもキラリと輝く自治体を目指すの決意表明。同様の質問は過去2回して、3回目の一般質問となります。

我が町の観光客は1千45万人をピークに現在は1千257万人となり、人口も9千800人から8千688人に減少して少子化が進んでいます。

平成10年前後で旅館民宿の約50%が廃業に追い込まれ、ホテルの倒産など最も厳しい状況となっています。

ノリタ光学、大黒電線の2工場が町から撤退し、宿泊業の廃止と相まって、働きたくても、バイト的な職場しかなく最悪の状況です。親が苦勞して子供は大学に出ても安定雇用の場が少ない、若者は職を求めて町から出てしまう。

若者の居ない町は活気がない。80歳前後の高齢者が子供に早く家を継いでと願うが、子供は雇用の場が無いから帰れない、早く雇用の場を造ってと願う家が多い。町はこのような事態を放っておくことは出来ないはずである。

町経済活性化の推進により、町の商工・観光の活性を図る。町財政の安定確保を図る。人口増加1万人確保を図る。雇用安定促進と人口増により、少子化を抑制し、増加を図る。

合併しない町を目指すには前記項目を推進してクリアすることにより合併しない道が開かれるし、町の将来を決する最重要課題で、この方向を目指すべきです。先祖が築いた町有地に一部上場企業の工場等を借地方式で誘致して、雇用対策を確立してほしい。企業誘致により町に固定資産税、住民税、借地料が入り財政確保が図られるなど、町と

して大きなメリットがあるので前記内容を踏まえて町長の考えを伺います。

質問

町有地の有効活用として一部上場企業の工場を借地方式



町有地の有効活用を考えよ（上中子団地）

で誘致するべきと考える。上中子住宅団地は進出企業の社宅向けに借地方式で活用する。

町長答弁

合併せずに自立の道を歩む我が町にとりまして、経済の活性化、人口増加、少子化の抑止、財政の安定確保が課題であり、町にとりまして観光が基幹産業であるが、現在では観光だけでなくバランスのとれた産業構造の構築を図り若者の雇用の方も確保され定住化次世代育成が図られるなどから、若者の意見を聞きながら積極的に進める考えである。

**上越線水上駅
乗りかえおよび
冬季の運休
対策とイベント
列車の増発
について**

上越線は昭和6年に開通して越後と関東圏を結ぶ主

要交通網として新潟と上野直通運行でした。平成6年から夜行列車を除く普通列車は全て水上駅乗りかえとなり、重い荷物を持って跨線橋を渡つての乗りかえが多くなり、利用客に不便をかけているのが現状で、普通列車利用の観光客が激減しています。越後中里駅スキー客来場者は7年8万1千600人、今年は1万4千300人で、6万7千300人の減です。

質問

○水上駅乗りかえを廃止、高崎・長岡直通運行で観光客の利便性を改善して観光客の増加を図る。

○冬季間降雪の運休を極力なくして公共交通の使命を果たすべきだ。

○山菜取り、スポーツ、森林浴、田畑炭焼き体験、川遊び登山、中里秋祭り、こらっしやい湯沢企画列車検討。

町長答弁

重要課題と認識し、群馬・新潟沿線市町村に呼びかけJRと国土交通省に請願を上げ取り組みたい。